

【告知／ほしまつり水行祭】

気が付けば落葉の季節となり、朝晩めっきり冷え込むようになりましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？今年も残すところあと二ヶ月。そして年末年始を気持ちよく迎える為にも、今年もやります！恒例の『真成寺ほしまつり水行祭』。今年は十二月二十二日（日）、ちょうど冬至の当日に開催します。真成寺では現在、水行にご参加の皆様（どなたでもOK。もちろん初心者でも大丈夫です）、また当日お手伝い頂けるスタッフの募集なども行っております。少しの時間でも構いませんので、どうかお手伝いご協力くださいますようお願い申し上げます。詳細は真成寺ホームページ（第6回ほしまつり水行祭）、お電話（0765-22-2268）などでお気軽にお問い合わせ下さい。

今年一年の様々を、水行という古来伝統の修行で締め括りましょう。水行を通してお互いに魂の共有を図り、皆が元気に新年を迎えられる事を目的に行います。どうか多数のご参加、ご協力を心よりお待ちしております。

【報告とお願い】

私事ですが、今年の大黒祭でも少し触れましたが（毎週水・木と東京大学の赤門をくぐって臨床カウンセリングの勉強に通っているという話…）、ここでご報告させていただきます。実は、無事に第一ステップをクリアする事が出来ました（拝）。そして十月二日から隔週で第二ステップの研修に通い出しました♪第二ステップからは実践を踏まえた研修で、いよいよ面白くなってきました。第二ステップは来年の一月二十九日までの研修となります。檀信徒の皆様には、月参り日時の変更などで、ご迷惑をお掛けすることになるかと思いますが、その都度ご了承下さいますようお願い申し上げます。

【南京大虐殺も捏造（一）】

【歴史認識問題に関して】

さて、それでは標題のテーマに入っていきます。橋下発言を機に、先月号まで五ヶ月にわたって『従軍慰安婦問題』について記してきました（長かったです…）。歴史認識問題だけに、堅く重たいテーマで読む方も大変だった事

と拝察いたします。歴史認識問題に関しては、まだまだ沢山取り上げなければいけないテーマがあるのですが、そればかりに偏ると書く方も読む方も息切れしてしまいます。ただ一方では、避けては通れない、知らないでは済まない問題が少々あるのも事実で、読者の皆さんから沢山の反響も頂きました。そこで今月号では、次のテーマを取り上げることにしました。

【南京大虐殺】

南京事件の話は、まことしやかに語られるテーマで、国際間で幾度も論争を巻き起こしています。専門家でもない私達にとって、一つの情報に右往左往してしまいがちですが、ここで読者の皆様とシッカリ事実を知覚してみたいと思います。しばしお付き合いの程よろしくお願いします。当テーマについて、色々調べを進めるうちに浮かび上がってきたのが、戦後になって突如この問題が騒がれる様になったという事実です。

【南京大虐殺も捏造だった】

そもそも【南京事件】とは、昭和十二年から始まった日中戦争（支那事変）初期に、日本軍は支那事変を集結させ

るため南京へ侵攻（南京攻略戦）した際、その占領から約六週間の間に兵士や捕虜、一般市民などを無差別に虐殺したとする説です。中国共産党が公式に示した犠牲者数が三十万人。この事件に関して、被害者数と事実在否の論争なども巻き起こっています。日本にとつて真に遺憾なことですが、確かな事実確認も為されないまま、中国にある『南京大虐殺記念館』の外壁には、大きな文字で「300,000」の数が、犠牲者数として掲げられており、反日感情を植え付ける為、恐ろしいことに中国の子供達は毎年そこへ行かされているのです。

また、この『南京大虐殺』は日本の教科書（中学校）にまで掲載され、日本人の「自虐史観」の根底に置かれてきました。もちろん、日本兵によるある程度の犯罪はあったようですが、それはどこの国の軍隊にもある程度のものであり、むしろ南京での日本軍の活動をみると、非常に人道的なものの方が多く目につきます。今日では、三十万人もの大虐殺また小規模の虐殺さえも実際にはなかった事が多くの証拠によって明ら

かになっています。(※外国人記者が撮影した多くの証拠写真が残っています)

【司令官・松井石根大将】

松井岩根(まつい いわね) 大将は、南京攻略の前に「決して民間人を殺してはならない」と全軍に厳しく命じていました。そして南京市民達や、南京にいた外国人は皆、南京城壁内に特別に設定された「安全区」の中に避難していました。日本軍は、その安全区内に中国兵が多くいることを知っていましたが、安全区を攻撃することはなかったのです。実際、南京占領後、安全区のリーダーだったドイツ人のジョン・ラーベ氏は「日本軍が安全区を攻撃しなかったことを深く感謝いたします」との感謝状を松井大将に手渡しています。

【南京国際委員会の公式発表】

考えてみると、三十万人も虐殺するというのは並大抵の事ではありません。かなり大がかりでなければやることではないでしょう。それも、誰の目にも触れる事なく執行することなど到底不可能です。当時の南京は閉ざされた場所ではなく、新聞記

者をはじめ多くの報道陣や外国人が定住していました。もし仮に、三十万人の虐殺という大惨事が事実ならば、どこからか漏れ出ない方が変です。実は当時の南京市には、約二十万人しかいなかったという説があるのです。だとしたら、二十万人しかない所で、どうやって三十万人を殺せるのでしょうか？ しかも日本軍の南京占領後、南京市民の多くは平和が回復した南京に戻ってきて、一ヶ月後に人口は約二十五万人に増えたようなのです。もし「虐殺」があつたのなら、人々が戻ってきたりするでしょうか？ **南京国際委員会**(南京の住民が集まっていた安全区を管轄する委員会)が「二十万人の人口から、南京陥落一ヶ月後の一月十四日には、人口二十五万人に増えた」と、公式発表しています。

【今月号まとめ】

紙面の関係上、やはり来月号まで持ち越しとなりそうです。それにしても、事実というのはいかに隠したとしても漏れ出てくるものです。また事実は、いかに隠しても外に現れるものだと思います。事実を嘘で塗り固める事などできないという事でしょう。来月号で

は、蒋介石の証言などを記して、南京大虐殺のまとめとさせて頂きます。皆様、季節の変わり目です。どうかご自愛專一になさって下さいますように。

合掌 副住職 谷川寛敬

復興支援イベント「願い」

去る十月二十七日(日) 環水公園で開催された、イベントもお蔭様で無事に終えることが出来ました。

心配された雨も天を味方につけ、雨が落ちることもなく全てのスケジュールを成功裡の内に終えることが出来ました。

午後一時から始まったイベントも夜には、キャンドルの光の元、幻想的な雰囲気の中で進められました。温度もかなり下がりがり、見ていらつしやる方々も随分寒かったことでしょう。歌あり踊りあり、ハルキさんのファイヤーダンス等、そして、ラニフラホアのフラ。

最後は、副住職のお話、黙とう。水行でイベントの締めとなりました。次回は、もう少し暖かい時にしたいですね！

